

みき通信

日本共産党 町議会議員
くぼたみき 活動報告



第52号 2015年8月25日

発行 がんばれくぼたみきの会

連絡先 875-7126 (阿部)

暑くて熱い！ 戦後70年目の日本

約2年間、国や電力業界が大宣伝した電力不足は起きず、原発がなくても電力需要を賄ってきたというのに、九州電力川内原発1号機（鹿児島県）が再稼働しました。福島原発事故の収束の見通しも立たず、核のごみの最終処分の問題も解決しないまま、安倍首相は今後も再稼働を進める方針です。

また、日本共産党の紙智子議員の追及で、環太平洋連携協定（TPP）交渉では、各国に「TPPでは国益を守れない」と批判が広がり、合意に至らない中で、日本はコメの輸入枠を増やすなど米国に譲歩を重ね、早期妥結を優先する異常な姿が浮き彫りになりました。

さらに戦後70年という節目の年に発表された「談話」は、自らの言葉で反省と謝罪が語られることはなく、安倍首相は積極的平和主義のもと戦争への道へと進む、安全保障関連法案を強行する姿勢を変えていません。

この法案は、安全と平和をどんなに強調しても、次々にその危険性と矛盾が示され「廃案に！」の声は全国にひろがっています。

国民のくらしや命を守ることも、一部の企業やお金持ちの利益を優先し、どれもこれも世論を無視して進む強引なやり方は、自民党や公明党を支持する人々をも巻き込んで、怒りをよんでいます。

「アベ政権を許さない！」この熱い心で、今、一人ひとりが声をあげて民主主義を日本に根づかせるときです。

葉山町総合計画 基本理念

『“みんなでつくる”葉山』はどこに？

町議会議員 くぼたみき

新聞報道にもあった「町立小中学校全6校分の給食を一括して調理実施する方法で、2019年9月の実施を目指す」は、議会には、町長召集の議員懇談会という形で行なわれたため質疑は出来ず、町側からの報告のみで「中学校給食実施」への期待はあるものの、現在自校方式により行われている小学校給食の今後への不安を残しました。新聞報道後、私にも疑問や不安の声が寄せられています。

教育民生常任委員会で改めて教育委員会からの説明、質疑を行いました。

- 全く話題になかった小学校給食を「中学校給食推進委員会」で検討している事
 - 「中学校給食推進委員会」のメンバーは、庁内の部課長で構成されているため、子どもたち、保護者の方の声は全く入っていない事
 - 食育の観点からは何も考えられていない事
 - 小学校給食を共同調理場（センター方式）に変更する上での、メリット・デメリットが全く検討されていない事
 - 建設候補地の上山口地域住民の方への説明もない事
- 等々、数多くの疑問が残りました。

小学校の耐震補強工事は終了したものの、いずれも老朽化が進んでいます。それぞれの給食調理施設を改修していくより、中学校給食共同調理場と一緒にした方がコスト面で有利。また、空いた小学校給食調理場所を放課後の学童スペースと使える。説明というのですが、これでは経営効率重視としか取れません。

今後、子ども達、保護者、学校関係者の意見を聞く場、説明会は行われるのか。再検討となったら、中学校給食実施に遅れが出るのか。など、町の姿勢が問われています。

27年度より実施されている、葉山町総合計画では、町民との協働が常にうたわれています。60年以上続いてきた「自校方式による小学校給食」を、庁内の部課長だけで構成される中学校給食推進委員会で考えられてよいはずがありません。中間報告であり決定事項ではない。というものの、27年度中に基本計画案をまとめる。というもので、問題点の変更余地があるのかどうか。

あらゆる面を考え、検討した小中学校の給食実施を今後も要望していきます。